

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	27 / 2010 / 29-32
タイトル	グダリ沼のこと
著 者 名	岩淵功

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

特別寄稿

グダリ沼のこと

岩 淵 功

いつごろ沼の存在が明らかになったのだろうか。

藩政時代の『南部境絵図』には、赤倉岳山頂の沼や、滝沢領下折紙沢の奥山の沼などまで詳しく描かれているが、この沼の記載はない。

地図上にこの沼が現れるのは、明治になって陸軍省用地や国有林の地形測量が行われてからであろうが、手許の資料は明治も晩年の45年の大林区署の『青森小林区八甲田事業区林相図』しかないが、それには、図1のように「田代沼」となっている。

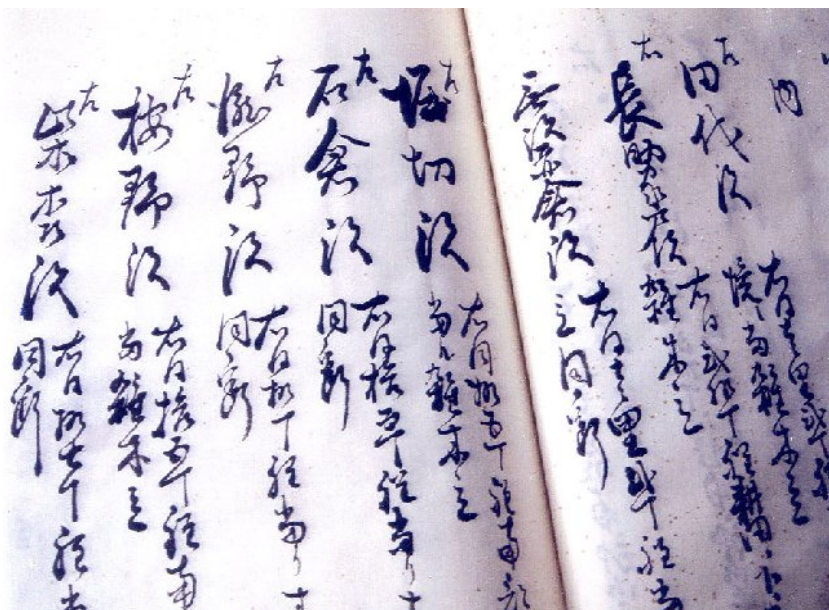
井伏鱒二の「グダリ沼」は昭和27年春の『川釣り』に収録されているから、地元では一般に「グダリ沼」と呼ばれていたらしいが、自分が昭和33年夏、最初に見た際の手帳の記事は、「田代沼」であり、2週間後、斎藤肇さんとみた日も同様である。二人の間でグダリ沼の名が話題になっていれば、奇異な名だけに「土人これをグダリ沼という」などと気取って書いておいた筈である。してみれば、役所関係は、グダリなどという得体の知れぬ名を避けていたのかもしれない。

津軽の山沢図と元帳

材木の運搬に河川を利用していたため、古くから山奥の沢に名がつけられていた。そして、沢によって山林の位置を示したり、その流域を管理経営のための区画として利用し、「沢分け預り」と称して、沢毎に山下住民に管理責任をもたせたりしている。御本山の台帳が『沢名元帳』と称されるのはそのためである。

当時は今と逆で、河川は川下から見るならわしであり、立木のように本流を幹とみて枝分かれする沢を記載している。そして梢端に当たる本流の水源の沢に無沢〇〇沢などと別名を記したりする。ま

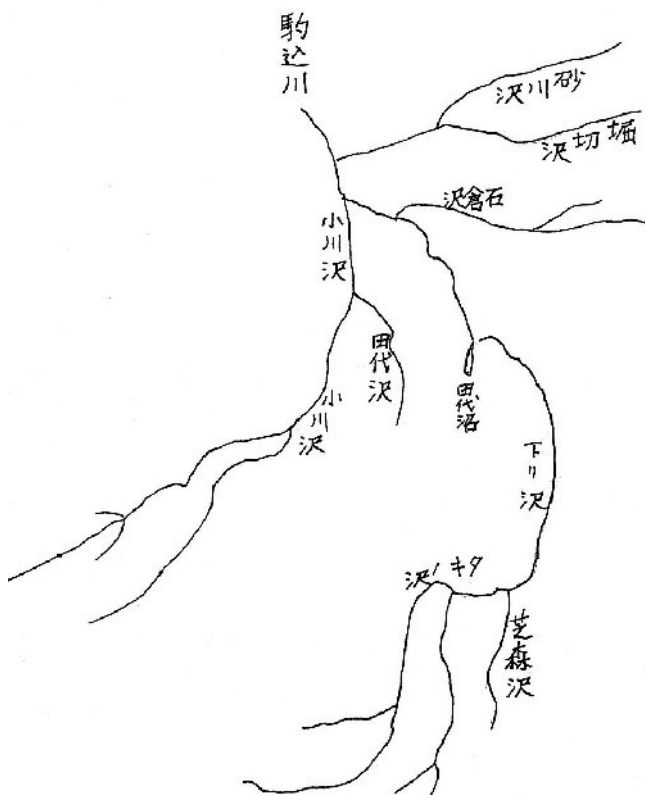
た、本流に匹敵する大沢があり、幹が分かれたように見える場合は、南又沢・北又沢という具合に、分かれる沢はもちろん、分岐点より上の本流にも別名がつけられ、その旨元帳や山沢図にも記載される例である。ここには参考資料として『外ヶ浜通沢名元帳』(写真1)と『仮称 津軽領内山沢図』(写真2)を掲げておく。



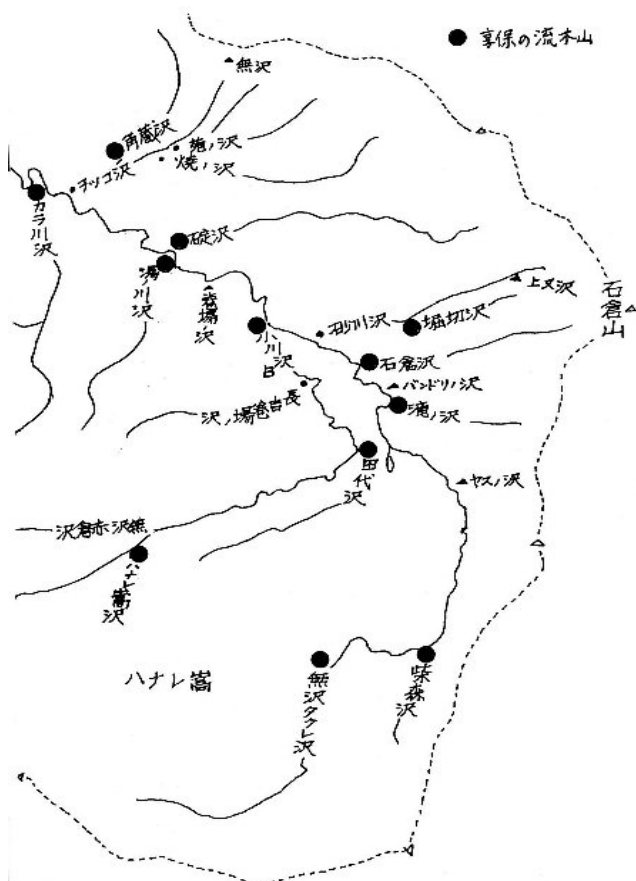
[写真1] 旧青森営林局蔵『外ヶ浜通沢名元帳』(写本) 沢名元帳の参考例として掲げた。田代沼とかグダリ沼の文字は見られないが、左頁の堀切沢の近くに位置する



[写真2] 旧青森営林局蔵・成見唯七寄贈本『仮称 津軽領内山沢図』(写本) 田代沼とかグダリ沼の記載はないが、山沢図の参考例として掲げた。描かれた範囲は山地は八甲田山麓岳(ハナレ嶽)から平地の幸畑・浜館あたりまで。田代沼とかグダリ沼は本図の「石クラ沢」の下位に当たる



[図1] 明治45年の林相図 この図には田代沼が出てくる



[図2] 現在の地形図に再現した旧藩の沢名

グダリ沢

さて、図1には、沼のある付近から上流に「下り沢」と記されている。しかし、山沢図や沢名元帳を始め、地元の『浦町・横内両組諸山仕上控』などにこの名はない。

唯一、享保18年、藩が明山での流木伐採を規制した際、駒込山で対象となった沢のなかに、「上下ヶ沢」「下くたり沢」のふたつがある。図2は現在の地図上に旧藩の沢名を当てはめ再現したものであるが、その際、この2つは全く手がかりがなく比定できなかったものである。

当時、濁音を表記しない例が多いから、この沢名が沼の名のグダリと関連があると思われる。ただ、後年の図1の下り沢は本流のごく一区間を指しているが、前述の記載法の慣例からは異常なことである。

したがって、図1の下り沢の位地には疑問があるし、さらにタキノ沢も図2を対比すれば明らかに「タクレ沢(無沢タクレノ沢とも云うがこれも妙な名である)」の間違いなことがわかる。甚だ問題の多い地図である。

上下ヶ沢と下り沢は、旧藩の図簿上では記載の対象にならぬ小沢だったか、或は享保後に諸図簿上で名を改めかいずれかであろう。あとの場合ならバンドリノ沢(境絵図だけに名がある)やヤスノ沢が該当する。

余談ながら、この沼についての自分の第一印象は、沼というよりは川の感じであった。とりわけ南側にも林があれば、昔の人は沼とは見ずに下り沢としていたのかもしれない。

この付近にグダリ沢や上グダリ沢があったのか、或はこの一帯をグダリと称していたのかいずれかであろう。

グダリの由来

名の由来については多くの類例を検討し、帰納的に推定する必要があるが、類似の沢

名は僅かに、大秋川の白沢の小沢に、クタリ沢(下り沢やクタレ沢とも書かれている)があるだけなので、アイヌ語の南端などという共通の特徴は思いつかない。グダリ沼は、まさか軍荼利明神の縮まったグダリではないであろう。

概してグタリとかクタリに近い言葉に、あまり良い意味のものはないらしい。

〇〇クンダリとは僻遠の場所のことだし、グダグタ言うとか、津軽でグダメグなどというのも褒め言葉ではない。連想される「卯の花くたす」は、「腐らす・損ずる」の意である。荒れた無用の土地を指す可能性があるが、いずれにしろ僅か3文字では、アイヌ語でなくても、探したら似たようなものが偶然の一致で出てこよう。下手をすれば、アメリカの大統領の出自を福井県に求めるようなことにもなりかねない。

クダらぬ素人地名考はこれくらいにして、グダリ沼は依然深い霧に包まれたままであるとしておこう。

追記

タクレ沼も、領内では浅瀬石川の小国沢とスルケ沢にあるだけで稀な名である。